

一般質問発言通告書

議席番号 7番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

「フェーズフリー」とは、「日常時(いつも)」と「非常時(もしも)」の区別をなくし、どちらの状況でも役立つようにしようという考え方です。

「災害リハビリテーション」とは、災害時の「生活不活発病」や「災害関連死」を防ぐために、リハビリテーション医学・医療の視点から支援することです。

「フェーズフリー」を「災害リハビリテーション」に当てはめると、「特別な準備をするのではなく、普段の生活の質を上げることがそのまま災害対策になる」という合理的で、持続可能な視点になります。

この視点の元、令和8年度施政方針中の「若い世代の健康寿命に対する意識啓発強化にも着手し、ライフステージに応じた身体活動の増加や食生活改善につながるように、地域や職域等と連携して健康増進の機運醸成や実践に取り組みます。」について伺います。

1 フェーズフリーに視点をおいた「健康でいきいきと暮らせるまち」について

(1) フェーズフリーにおける理学療法士との連携について

- ① 日常時、浜田市において、理学療法士との連携を伺う。
- ② 非常時、理学療法士との連携又は期待することを伺う。

(2) フェーズフリーにおける作業療法士との連携について

- ① 日常時、浜田市において、作業療法士との連携を伺う。
- ② 非常時、作業療法士との連携又は期待することを伺う。

(3) フェーズフリーにおける言語聴覚士との連携について

- ① 日常時、浜田市において、言語聴覚士との連携を伺う。
- ② 非常時、言語聴覚士との連携又は期待することを伺う。

(4) フェーズフリーの視点における災害リハビリテーションの可能性について

- ① リハビリテーションカレッジ島根の存在意義を伺う。

- ② 福祉避難所でもあるリハビリテーションカレッジ島根には、その知識をもった職員や学生がいる。災害時におけるその支援の要請体制を伺う。

2 中山間地域における消防・救急体制の充実について

- (1) 消防団車庫の外壁への AED 設置事業について
 - ① この事業を行うこととなった経緯を伺う。
 - ② この事業の整備計画を伺う。
 - ③ この事業の課題を伺う。
 - ④ この事業に合わせ、孤立が想定される中山間地域の消防団車庫への「災害時に寸断しない情報通信」の整備する考えがあるか伺う。
- (2) 火災発生時における初期消火訓練について
 - ① 特に住民や事業所などが参加しやすい消火訓練の方策を伺う。
 - ② 消火栓への消防ホース格納庫の設置について伺う。
- (3) 防災ヘリ等が離着陸する「場外離着陸場」施設の維持について
 - ① 市内における「場外離着陸場」の設置数を伺う。
 - ② 夜間における離着陸の可能性を伺う。
 - ③ 「場外離着陸場」の維持における課題を伺う。

発言No.

13

受付No. 19

令和8年 2月13日

10時48分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 西田清久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 人口減少対策について

(1) 社会増減対策について

- ① 移住者獲得に向けて、今や自治体間競争が過度になりつつあると感じる。
他の自治体においてはふるさと納税の大部分を移住者支援に向けているところもあるが、浜田市の今後の移住者獲得施策の所見を問う。

(2) 自然減対策について

- ① 令和7年度の出生数が極めて減少している。交付金事業など国の財源に頼らなければならないところもあるが、市として独自の新たな対策はないのか問う。

2 浜田市のドローン活用について

(1) 浜田市消防によるドローンの活用について

- ① 市の8割が山林で、林野火災発生時の対応や、市には土砂災害警戒区域が多数あり、市民（特に高齢者）が災害時に孤立する可能性や過去にもあった高速道路での事故（ドクターヘリ）等においてもドローンの積極的活用ニーズは非常に高まっていると感じるが、市長の所見を問う。

3 浜田市の歩きたくなるまちづくり（ウォーカブル推進都市）施策について

(1) 浜田駅周辺グランドデザインについて

- ① 浜田駅周辺には多くの拠点施設がある。三桜酒造跡地もその一つになろうとしているが、日常的に多くの人が集える場所（広場）等のデザインについては、放射線状の導線をイメージし、しかもその道程が歩きたくなるようなウォーカブルな街づくりを推進してはどうか市長の所見を問う。

4 浜田郷土資料館建替え整備について

- ① 浜田郷土資料館の老朽化による建替え整備については理解するが、建設コストや運営費等の将来負担について「賢く縮む」の方針との整合性について所見を問う。

一般質問発言通告書

議席番号 16番

氏名 笹田 卓

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

1 活力のある産業を育て雇用をつくるまちについて

市長は施政方針において、浜田漁港の水揚量の増大を最重要課題と位置付け、地元漁船の存続に取り組むと明言された。その決意を重く受け止め、浜田の基幹産業をどう立て直していくのかという観点から、以下伺う。

(1) 漁業の再生について

- ① 水揚量増大に向け、これまでの施策を踏まえつつも、市長として特に重点を置こうとされている取組や新たに打ち出そうとしている方向性について、見解を伺う。
- ② 地元漁船の存続に向け、現時点で最も重要と認識されている施策について、その優先順位の考え方も含め、市長の認識を伺う。
- ③ 水産業の付加価値向上に向け、民間事業者（三陽、プロキシマー等）との具体的な連携提案や協議を、市として積極的に進める考えはあるのか。その方向性を伺う。
- ④ 将来の浜田の漁業を、量の確保を軸として再生していくのか、あるいは付加価値型への転換をより重視していくのか。今後10年を見据えた基本戦略の方向性について、市長の認識を伺う。

2 夢を持ち郷土を愛する人を育むまちについて

(1) 石見神楽の将来像について

市長は施政方針において、石見神楽の保存・継承に取り組むと位置付けられた。浜田の象徴的存在であるとの認識に立ち、以下伺う。

- ① 浜田をどのような「神楽のまち」として国内外に発信していきたいと考えているのか。石見神楽の伝承の在り方も含め、市長が描く全体像を伺う。
- ② その将来像を実現するために、観光振興やまちづくりとどのように結び付け、具体的な施策を展開していく考えなのか伺う。

(2) 郷土資料館の建替えについて

市長は施政方針において、郷土資料館の建替え整備に取り組むと明言された。文化行政の方向性を示す重要な判断であるとの認識から、以下伺う。

- ① 郷土資料館の整備について、単独での建替えを基本とするのか、他の公共施設との複合化を視野に入れるのか、市長として現時点での基本的な方向性を示す考えはあるのか伺う。

② 本整備を通じて、浜田の歴史や文化資源をどのように次世代へ継承し、まちづくりに生かしていこうとしているのか。その将来像を伺う。

3 生活基盤が整った快適に暮らせるまちについて

(1) 公共交通について

市長は施政方針において、持続可能な公共交通体系の構築に取り組むと明言された。人口減少社会を前提に、以下伺う。

① 現行路線の維持にとどまらず、運行体系そのものの見直しや新たな仕組みの導入も含めて検討する考えはあるのか伺う。

② その見直しにより、市民の移動環境をどのように変え、どのような地域像を実現したいと考えているのか伺う。

(2) 下水道と浄化槽について

市長は施政方針において、将来を見据えた生活基盤の在り方を検討するとされた。長期的財政運営の観点から、以下伺う。

① 現行下水道事業完了後の方向性として、新規拡張を抑制し、浄化槽中心へ段階的に移行する可能性について、市長はどのように考えているのか伺う。

② その方向性が将来の財政負担や地域生活環境に与える影響を、どのように見通しているのか伺う。

(3) 地域医療について

市長は施政方針において、人口構造の変化に対応した医療体制の構築に取り組むとされた。将来世代への責任という観点から、以下伺う。

① 将来にわたり維持すべき医療機能について、どのように整理し、優先順位を考えているのか伺う。

② その体制を構築することで、市民にどのような安心を確保できると考えているのか伺う。

4 協働による持続可能なまちについて

(1) 駅前周辺整備について

市長は施政方針において、浜田駅周辺のグランドデザイン策定に着手するとされた。中心市街地の将来を左右する重要課題として、以下伺う。

① 浜田駅前をどのような空間として再構築していきたいと考えているのか、市長自身の言葉で伺う。

② その整備を通じて、浜田をどのような都市へ導いていこうとしているのか伺う。

(2) 三桜酒造跡地について

市長は施政方針において、三桜酒造跡地の利活用を検討するとされた。中心市街地再生の象徴的課題であるとの認識から、以下伺う。

① 当該跡地を中心市街地の中でどのような役割を担う場所として位置付けようとしているのか、市長の構想を伺う。

② その活用により、中心市街地にどのような変化をもたらし、どのような未来像を描こうとしているのか伺う。

5 教育方針について

(1) 学校の適正配置について

教育長は教育方針において、少子化を見据え学校統合や適正配置、あわせて学校給食施設の統合再編を検討するとされた。子どもの教育環境を最優先とする観点から、以下伺う。

① 少子化が進行する中で学校統合や適正配置、給食施設の再編を検討するにあたり、教育の質の維持・向上を最優先とする基本理念に立ち、その実現に向けた判断基準を明確にした上で進めるとの方針であると理解するが、教育委員会として最も重視する判断基準は何か伺う。

② 地域の理解を得る努力を尽くすことは当然としても、子どもの教育環境の維持・向上のために必要と判断した場合には、地域の了解が十分に得られていない段階であっても、実行の判断を行う局面があり得ると考えているのか。その基本姿勢を伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 10 番 氏名 沖田真治

答弁を求める者 (市長) 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 浜田ゴルフリンクスにおける大規模太陽光発電事業計画と行政判断について

再生可能エネルギーの推進は重要である。しかし、その推進は立地条件、事業規模、法令整理、地域への影響を十分に検証した上で行われるべきであり、行政の判断が曖昧なまま進められる大規模開発は容認されるものではない。本計画は、残置森林機能を前提に長年運用されてきたゴルフ場という特殊な土地に、約 40 ヘクタール、66,720 枚という極めて大規模な太陽光発電施設を設置するものであり、残地森林に関する誓約、治水機能、後野町において顕在化している被害状況 農業・漁業者への影響、さらには本市におけるルール不在など多くの課題があると思い以下の通り質問する。

(1) 環境影響評価の進捗と今後の対応について

- ① 本計画について現時点でどの段階にあると認識しているのかを伺う。
- ② (仮称)浜田市太陽光発電所に係る計画段階環境配慮書に対する島根県知事意見をどのように捉えているのか伺う。

(2) 残置森林等の管理に関する誓約と目的外使用の可否について

平成 6 年 3 月 29 日付でオリックス浜田開発株式会社から浜田市に提出された「残置森林等の管理に関する誓約書」には

- ・ 残置森林等は他の目的には転用しない。
- ・ 残置森林等が地域森林計画の対象となる場合は、その計画に即した施業を行う。
- ・ 残置森林等の所有権その他森林等を利用する権利を他に譲渡したときは、この誓約事項を当該権利者に継承する。と明記されている。

- ① 「残置森林等の管理に関する誓約書」は現在も保有する行政資料であり、上記にある内容は現在でも有効であるという認識なのかを伺う。

- ② 太陽光発電所計画は他の目的の転用に該当するものであると思うが、この誓約において問題は無いという認識なのか伺う。
- ③ 太陽光発電所計画は地域森林計画が定める森林の有する公益機能の維持を果たすものとの認識なのか伺う。
- ④ 太陽光発電所計画における環境影響評価において誓約書の内容は、どのように考慮されるのかを伺う。

(3) 水害リスクと既存の太陽光発電事業での実被害を踏まえた考え方について

- ① 令和3年8月9日に浜田市後野町において約 4.2 ヘクタール、約4700枚規模の太陽光発電施設から大量の雨水が周辺の道路や農地流れ込む被害が発生している。また、令和4年6月24日には道路への土砂流出による被害が出ている。これらの実情は、どのような形で「(仮称)浜田太陽光発電所計画段階環境配慮書に対する意見について」に反映されたのかを伺う。
- ② 本計画地である浜田ゴルフリンクスは残地森林機能とゴルフ場利用により雨水の地下浸透が確保され、久代川、天神川流域において大きな水害が発生してこなかった実績がある。この場所に地下浸透を著しく低下させる太陽光発電パネルを約 40 ヘクタール、約 66,720 枚設置することは、後野町における規模をはるかに超える規模の計画である。市として浜田ゴルフリンクスにおける計画に対しての洪水、土砂崩れのリスクを、どのように考えているのか伺う。

(4) 漁業者との協定と開発行為に伴う影響と補償について

- ① 浜田市と江津市の漁業協同組合等と当時のゴルフ場経営者の間には農薬使用や開発行為に伴う泥水流出等に関する協定書が存在する。本計画により土地利用が大きく変更された場合、当該協定の趣旨や補償はどうなるのか、浜田市の認識を伺う。
- ② 現時点で漁業者への説明や協議がなされた様子がない。農業者に対しても同様に説明や協議が開かれた様子がない現状について、市としてどのように捉えているのか伺う。

(5) 既存の課題を踏まえた行政判断の妥当性について

- ① 本事業は、「カーボンニュートラル推進」、「再生可能エネルギーの導入及び地球温暖化対策に資することが期待される」と「(仮称)浜田太陽光発電所計画段階環境配慮書に対する意見について」に記されているが、「後野町での洪水、土砂被害」「残置森林機能の低下による災害リスクの増大、農業、漁業者への影響及び、開発行為に伴う土砂等の流出への責任の所在などが曖昧であること」「当該地区住民を中心とした周辺地区住民の計画への反対」という現状を踏まえても本市として太陽光発電所計画を推進するという立場であるのであれば、その判断は妥当とは言い難いと思うが、市としての考えを伺う。

令和 8 年 2 月 4 日

3 時 50 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番 氏名 岡本正友

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(口をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1・防災減災を基軸とした持続可能な地域づくりについて

近年、全国各地で自然災害が激甚化・頻発化しており、本市においても防災減災対策の強化は喫緊の課題である。

先般の総務委員会視察では、松山市の全世代型防災教育や「逃げ遅れゼロプロジェクト」、今治市のフェーズフリー防災拠点型施設を確認した。

また、会派視察では移住定住促進施策を調査し、安全・安心な暮らしが人口減少対策に重要であることを再認識したところである。

さらに、視察の道中に大分市佐賀関の田中地区を訪ね、昨年 11 月の住宅密集地で約 170 戸が焼失する大火災が発生した現状を確認し、防災体制や避難環境の課題が顕在化していると感じている。

本市が今後も人が住み続け、選ばれる地域であるためには、防災教育・地域づくり、文化資源活用、移住定住施策を連動させて取り組む必要があると考え質問をする。

(1)防災減災施策の現状認識について

- ① 市における近年の災害リスクの特徴と、防災減災に関する現状認識について伺う。
- ② 昨年 11 月に発生した漁村住宅密集地での大規模火災について、市として把握している課題と、今後の対策の方向性について伺う。
- ③ 住宅密集地や高齢化が進む地域における初期消火体制および避難体制について、どのような課題を認識しているか。

(2)全世代型防災教育の推進について

- ① 松山市では、子どもから高齢者までを対象とした全世代型防災教育を体系的に進めているが、本市における防災教育の現状と課題について伺う。

- ②学校教育における防災教育と、地域・家庭・高齢者への防災意識啓発をどのように連携させていく考えか。
- ③「逃げ遅れゼロ」を目指す観点から、要配慮者への支援体制や個別避難計画の整備状況について伺う。

(3) フェーズフリーの考え方と防災拠点整備について

- ①今治市では、平常時と災害時の両方で機能する「フェーズフリー」の考え方を取り入れた防災拠点型施設が整備されているが、本市の公共施設整備における防災視点の位置付けについて伺う。
- ②既存施設を含め、平常時は地域の交流拠点として、災害時には避難所・支援拠点として活用できる施設整備について、今後検討する考えはあるか。

(4) 文化資源（神社・寺院）の防災活用について

- ①本市には神社 103 社、寺院 116 寺が所在し、地域の歴史・文化を伝える貴重な資源であるとともに、立地や構造から避難所としての可能性を有する施設も多いと考えるが、市の認識を伺う。
- ②登録有形文化財（建造物）を含め、神社・寺院の歴史資料や建築情報のデータ化、市史としての整理状況について伺う。
- ③文化財保護の観点を踏まえつつ、災害時の一時避難場所や防災拠点として活用する可能性について、今後検討する考えはあるか。

(5) 防災減災と移住定住施策の連動について

- ①移住定住促進において、「安全・安心な暮らし」は重要な判断材料となるが、本市の移住定住施策に防災減災の視点をどのように反映しているか。
- ②防災体制の充実や地域コミュニティの共助の仕組みを、移住希望者にどのように情報発信していく考えか。

(6) 今後の総合的な地域づくりについて

- ①防災減災、教育、文化資源の活用、移住定住施策を連動させた「人が住み続けられる地域づくり」について、市長の所見を伺う。